

子宮頸がん予防ワクチンの健康被害者に救済措置を！



金子 裕美 議員

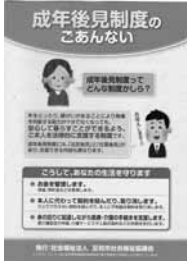
**問** 同ワクチンの接種により健康被害を受けた方が本市にもいる。国に先行して行った任意接種であったが、市として有効な救済措置をすべきではないか。

**市長** 国が実施している医療機関への全国調査や予防接種後に生じた症状に関する研究結果、他市の救済制度などの情報を収集しており、引き続き適切に対応していきたい。

◆成年後見制度

**問** 認知症高齢者の増加や障がい者の地域移行が進む中で、同制度の必要性が高まっている。後見人不足が深刻になる前に、法人として後見を請け負う、いわゆる法人後見を行う団体等の支援を始めるべきではないか。

**健康福祉部長** 足利市社会福祉協議会では判断能力が十分でない方の福祉サービスや金銭管理等の援助を行う日常生活自立支援事業を実施しており、多くの方が成年後見制度を利用することなく日常生活を送っているが、今後さらなる高齢化により制度利用の需要がふえると見込まれることから、法人支援について研究していきたい。



▲成年後見制度普及のリーフレット

地域経済の活性化を！



尾関 栄子 議員

**問** 市内の卸・小売商店数は30年間で44%、建設業者数は平成8年から29%も減少している。市内商店活性化のために金券（輝きチケット）支給対象事業をふやすとともに、住宅リフォーム助成制度の復活拡充と店舗版リフォーム助成制度を創設すべきではないか。

**産業観光部長・都市建設部長** 現在、金券を発行しているのはエコ・アクションポイント事業等である。金券の使用は市内商店と限られていることから今後も市内商店の活性化に寄与していきたい。また、両助成制度については厳しい財政運営の中で実施は困難と判断した。

◆子ども医療費

**問** 子ども医療費窓口無料化の県内の流れは中学生までであるが、2市2町は高校生まで広げている。子育て世代の応援を掲げるならば、高校生まで広げるべきではないか。

**健康福祉部長** 一部では現物給付の拡大は過剰受診を呼び、保険料の引き上げや増税につながると思われる。限られた財源の中で子育て世代に対するさまざまな支援を行っており、必要な支援を見極めて取り組んでいきたい。



成年後見制度の利便性の向上を！



大島 綾 議員

**問** 判断能力の低下によりさまざまな支援が必要な方々のために、相談から後見制度の利用支援までをワンストップで担う機関として成年後見センターを開設してはどうか。

**健康福祉部長** 本市においても、今後、さらなる高齢化や認知症高齢者の増加などにより、制度利用の需要がふえると見込まれることから、成年後見サポートセンターの開設について研究していきたい。

◆認知症サポーターのスキルアップ

**問** 認知症サポーター養成の上級講座を開催し、これを修了した上級サポーターには、地域や介護施設などで認知症の方々の見守りや話を聞く傾聴ボランティアとして活躍していただいてはどうか。

**健康福祉部長** 研修を修了した方のうち、継続して活動を希望する方を、「たかうじ君」の「たか」と認知症サポートキャラバンのマスコット「ろば」とを合わせた「たかろばサポーター」と認定し、たかろばカフェ（認知症カフェ）などで、傾聴ボランティアとして活躍いただく予定である。



▲たかろばカフェの様子（アピタでの開催時）